

考古資料館に行ってみよう2

鳥羽離宮金剛心院の瓦は語る

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 金剛心院出土の屋根瓦

[つよし君とところさんは中学生。社会科の調べ学習について相談しています。]

つよし ねえねえ、社会科の調べ学習のテーマ、もう決めたの？

ころ 京都市考古資料館の見学レポートを書こうと思ってるけど…一緒に行きましょう。

[ふたりで資料館に行き、2階の常設展示で瓦を見ている。]

つよし 瓦なんて、どれも同じように見えて全然おもしろくないね！

[そこに、当代「瓦博士」といわれるU先生が現れて、ながーい説明が始まる。]

U先生 その瓦は鳥羽離宮跡から

出土したんだよ。鳥羽離宮は、今の名神高速道路の京都南インターチェンジ付近にあったんだ。平安時代後期に造られた院の御所と寺院群で、院政の舞台になった場所だよ。院政は知ってるかい？

ころ 学校で習いました！天皇が退位して上皇になり、政治の実権を握ったんでしょう。今から800年ほど前の平安時代後期、150年間にわたって、白河・鳥羽・後白河・後鳥羽上皇が有名よ。

U先生 ちなみに上皇が出家すると法皇になるんだよ。その鳥羽離宮内に、鳥羽法皇が造った寺院が、金剛心院なんだ。その建物に葺かれていた瓦を展示してるんだ。

のきさき 軒先の瓦（軒丸瓦・軒平瓦）の文様は大変よく似ているだろう。これは、粘土を押し込んで瓦の文様を作る木製型に下絵があって、職人がその通りに作ったからなんだ。もっと近くでよく見ごらん。ちょっとずつ違っている所が見つかるよ。

つよし そうか、全く同じものを作るのは難しいんだ。どれも似ているのが逆におもしろいな。間違い探しみたいだね。

ころ ところで先生、解説に産地が書いてあるけど、どうして分かるの？

U先生 瓦をなめてみると分かるんだよ。それは冗談だけど…。鳥羽離宮で発見された瓦と、播磨（兵

兵庫県神戸・明石市）・讃岐（香川県綾川町）・山城（京都市左京区栗栖野幡枝）などの窯跡で発見された瓦の文様を比較することで産地が分かるんだ。それに各地域特有の作り方があって、粘土や焼き方にも特徴があるよ。これらを総合して決めるんだ。それでも分からないものも多いけど…。

つよし うーん、ところで瓦って重いんですか？

U先生 そうだよ。軒平瓦は1枚約6キロもあって、たくさん持つと腰を痛めるほど重たいし、建物には瓦が何万枚も乗っていたんだ。

こころ そんなに重いのなら、京都で作ったら楽なのに、なんで遠くで作ったんですか？

U先生 いい質問だね。当時の院の御所や寺を造る時には、各国に命令して費用を負担させる方法と、各地の国司などが官位をもらったり、国司に任命されたりする見

返りに自ら費用を負担する方法があったんだ。その場合に負担された国で作った瓦を運んだ場合もあると考えているんだ。この時代には瓦を売買していたから、様々な供給の方法が想定出来るんだ。

こころ 金剛心院の場合は、どうなの？

U先生 文献によると造営の様子が書かれていて、建設当初は釈迦堂と御所などは播磨守源顕親、阿弥陀堂は備後守藤原家明が請け負ったんだ。ところが出来上がったから恩賞を受けたのは、播磨国司を重任した源顕親と、讃岐国守に任命された藤原成親だったんだ。家明と成親は兄弟で、そのお父さんの家成は鳥羽上皇のお気に入りだったんだ。その家成が播磨国・讃岐国の知行国主として造営の中心と見られるのだよ。

こころ それで播磨と讃岐の瓦が多いんだ。

U先生 ところが、そんなに単純ではなく、金剛心院で発見された瓦の60%が播磨産瓦、讃岐産は5%と少なく、山城産はそれより多く15%もあるんだ。釈迦堂・阿弥陀堂ともに大半が播磨産瓦で、阿弥陀堂では讃岐産は少ない。また、寝殿には山城産が見られるよ。瓦の出土の様子は、文献史料を裏付けるだけでなく、それ以上の情報も教えてくれるんだよ。

つよし へー！！瓦から色々わかるんだ。瓦は口が無いのにね。

U先生 そうだよねー。そんな重く堅い瓦の口を割らせるのが、考古学者の腕の見せ所ってところかな。[笑]

こころ・つよし やったね！これで自由研究一丁あがり。ありがとうございますm(_ _)m [ふたり、晴れ晴れとした顔で帰ってゆく。]

（上村和直）



写真2 鳥羽離宮金剛心院の復元模型（東から）（模型：京都市1994、イラスト：上村和直）